

トピック ―主な野菜の輸入状況について―

平成22年の主な野菜の輸入状況をみると、

① 輸入数量が比較的多い野菜（ばれいしょ、たまねぎ）

② 輸入数量シェア（国内の需要量（国内生産数量＋輸入数量）に対する輸入数量の割合）が比較的大きい野菜（しょうが、にんにく）

③ 輸入数量は多いとは言えず、また、輸入数量シェアも比較的小さい野菜に分けることができる。

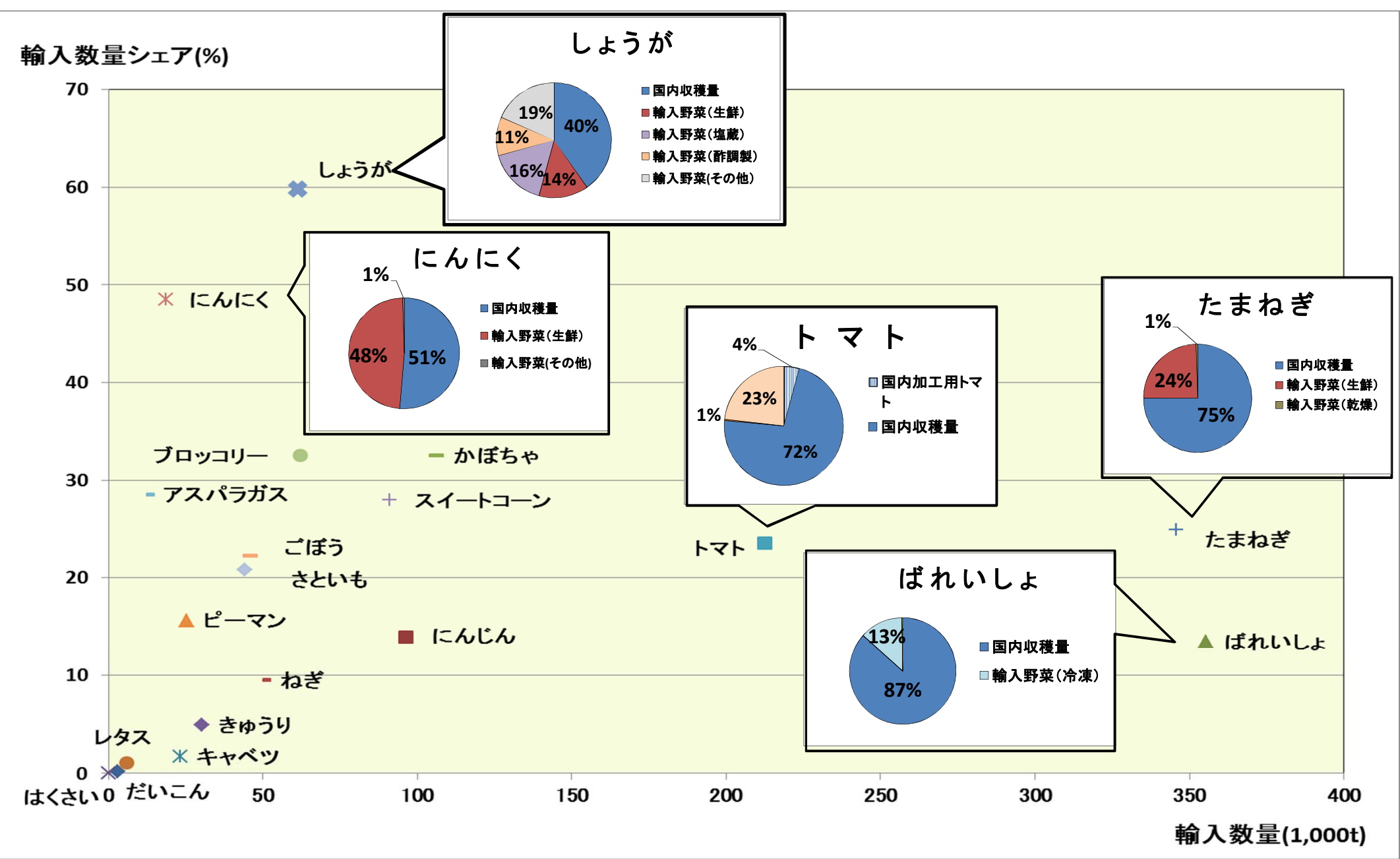
このうち、①の野菜については、ばれいしょは、冷凍ものが需要量の1割超、また、たまねぎも、生鮮のものが4分の1程度の輸入であり、輸入数量シェアは大きくないが、需要量が多いことから輸入数量が多くなっている。

また、②の野菜については、そもそも需要量がそれほど多くないことから輸入数量は多いとは言えないが、しょうがは、生鮮のもの、用途に応じて、紅しょうが用等の塩蔵もの、ガリとなる酢調製のものや、すりおろし形態のものが併せて6割輸入され、にんにくも、生食用等を中心に生鮮のものが5割輸入され、輸入数量シェアが大きくなっている。

なお、以上の他、トマトは、4分の1程度の輸入があるが、そのほとんどが加工品であり、食生活の洋風化等に伴い増加した需要に対応したものとなっている。

野菜の輸入は、国内生産の状況、為替レート等、様々な要因に影響されるが、増加している加工・業務用需要に国内産地が適切に対応できなければ、鮮度保持技術の向上もあり、③の野菜が①や②の野菜の方向にシフトする可能性がある。

主な野菜の輸入数量と国内需要量に対する輸入数量シェア（平成22年）



注) 輸入数量（生鮮野菜を除く形態のもの）は、生鮮換算をせずに実数をそのまま採用している。

資料：資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」農林水産省「野菜生産出荷統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★野菜の旬ナビゲーション「ベジシャス」 http://www.alic.go.jp/v-suishin/vaiukyu01_000076.html